最後に、東京・名古屋・大阪の沖縄事務所の所長初め所員の方々には大変お世話になり、お陰様で予定通りの日程を消化することが出来ましたことを心から感謝申し上げます。

Ⅲ　養殖及び種保存日報の記入指導

養殖生産については、Ⅰでも述べたように年々生産の増加がみられるがこれは、地域差があまりにも大きいことと養殖従事者が増え、それに伴ない網数が増えたことによるものであって、全体的には、1枚当りの生産量は、18kg以下の地域がほとんどであり、まだまだ安定生産までにはいたってない。

特に12月～1月にかけての低水温期の対策、後期（4～6月）の梅雨期に入ってからの養殖管理と毎年同時期には同じようなパターンで伸びなやみや芽落ち現象がみられ、そのたびに、調査を依頼され原因の究明をせまられるがかんじんな養殖現場の観測データーが皆無の状態にあるため、適切な状況判断が出来ず十分な指導が出来ないことから昭和55年度から標本漁家を10漁協、観測者90名を選定し日報記入の指導にあたっている。

観測結果については、1年ごとに資料を整理し報告したい。

55年度は、実施途中であり結果については、次年度に報告し、今回は日報記入様式を紹介する。

オキナワモズクの種保存日報－1

年度　　漁協名：　　観察者：

月日	気温	天候	種の保存状況				保存場所の明るさ			保存方法		「盤状体のはく離症状」（着生、生育後の盤状体が「はげ落ちる」過程、特に何日頃からどういう状態でどうなったかを書く、雑藻の発生状況も）
			保存水温	比重	換水回数	栄養剤の種類、添加量、回数	非常に明るい(◎)	明るい(○)	うす暗い(△)	パンライトのみ保存(◎)	種板保存(○)	
												(1)種取りは ①簡単に取れた（どちらかに ②思うように取れなかった。 ○をつける）
												(2)保存は ①楽に保存出来た（　〃　） ②思うようにいかなかった。
												(3)思うようにいかなかった理由について、感じたことを書く。
												(4)「はげ落ちる」過程について感じたことを書く。
												(5)雑藻の発生状況について感じたことを書く。

オキナワモズクの養殖日報－Ⅱ

年度　　漁協名：　　観察者：

月日	気温	天候	盤状体採苗		藻体採苗		苗床の状況				本張りの状況				沖出し後の発芽生育及び網の手入れの状況
			採苗回数	採苗網数	採苗回数	採苗網数	底質	(干潮・満潮)水深	水温	比重	底質	水深	水温	比重	
															(1)沖出し後、苗床内での育苗期間 苗床内での　　日間 (2)発芽生育の状況（○をつける） ①順調である ②伸びなやみや芽落ちがみられる ③全く伸びない (3)伸びなやみや芽落ちが見られるのは沖出し後、何日頃からか。 月　日から　　何日間 (4)その対策は、どのようにしたか。 (5)苗床育苗後、何日目に本張りしたか。 日目に本張りした。 (6)本張り後は、伸びなやみや芽落ちはないか（○をつける） ①順調である　②伸び悩みや芽落ちがみられる ③全く伸びない (7)伸び出したのは何月何日頃か 月　　日 (8)手入れは、何日間隔で実施したか。 日間隔 (9)手入れの方法は